

LGBTQ+の人権課題を多角的に議論する

「Human Rights Conference」開催

～スポーツ・SRHR・排外主義をテーマに専門家・当事者が登壇～

2026年4月9日

特定非営利活動法人東京レインボープライド

特定非営利活動法人東京レインボープライド（所在地：東京都港区、共同代表理事：山田なつみ、佐藤ユウコ、以下TRP）は、プライドマンスである2026年6月に開催する「Tokyo Pride 2026」の公式プログラムとして、人権をテーマに議論する「Human Rights Conference（ヒューマンライツカンファレンス）」を2026年6月20日（土）にお茶の水女子大学にて開催いたします。



The poster features a colorful geometric pattern at the top. On the left, a white box contains the text "社会とともに考える、人権のいま". Below this, the title "Human Rights Conference" is written in large, bold, white letters on a dark brown background. Underneath the title, "ヒューマンライツカンファレンス" is written in smaller white text. On the right side, the date and time "2026.6.20 Sat 13:00 - 17:00" are displayed in brown, followed by the location "@お茶の水女子大学 事前申込制" in black. A small inset image shows a panel discussion on a stage with a screen behind them displaying "Session 3 国際的な反ジェンダー運動を冷静に分析・対応するためには". The Tokyo Pride 2026 logo is in the top right corner, and a copyright notice "© TokyoPride2025" is at the bottom right of the inset image.

社会とともに考える、人権のいま

Human Rights Conference

ヒューマンライツカンファレンス

2026.6.20 Sat 13:00 - 17:00

@お茶の水女子大学 事前申込制

Session 3
国際的な反ジェンダー運動を冷静に
分析・対応するためには

© TokyoPride2025

Tokyo Pride 2026のテーマは「多様性と平等がひらく未来」

本カンファレンスでは、LGBTQ+コミュニティが直面する人権課題を起点に、スポーツへの参画、SRHR（性と生殖に関する健康と権利）、排外主義など、社会に根付く様々な不平等の構造について議論します。

当事者、大学教授、法律専門家、アクティビストなど多様な登壇者を迎え、個別に見える課題のつながりを理解し、誰もが「らしく、たのしく、ほこらしく」生きられる社会の実現に向けて、私たちにできるアクションをともに考えます。

■参加申込（Peatix）

<https://tokyopride-hrc2026.peatix.com/>

開催背景

Tokyo Prideは、プライドマンスである6月を通じて、LGBTQ+の権利向上を目的に、プライドパレードやフェスティバルをはじめ、アート、ユースなど複数のプログラムを展開しています。

Human Rights Conferenceは、その中でも特に「人権」をテーマに据え、当事者をはじめ、専門家、アクティビストなど多様な立場の参加者が集い、社会の構造的な課題について共に学び、考えることを目的としたプログラムです。

2026年のテーマ「多様性と平等がひらく未来」を基に、本カンファレンスでは「平等」を理念として掲げるだけでなく、制度や社会のあり方に関わる権利の問題として捉え、その実現に向けた議論を行います。

LGBTQ+の人権課題は単独で存在するものではなく、スポーツへの参加機会、身体の自己決定、社会的排除など、社会に存在するさまざまな不平等と密接に関係しています。

本カンファレンスでは、専門的知見と当事者の視点を交えながら、分断ではなく対話を通じて理解を深め、より包摂的な社会のあり方を考えます。

Tokyo Pride 2026 Human Rights Conference 開催概要

正式名称： Human Rights Conference （ヒューマンライツカンファレンス）

開催日時： 2026年6月20日（土）

開催場所：お茶の水女子大学 共通講義棟2号館

参加費：500円 ※学生や経済的事情がある方は無料（詳細はお申込みページをご覧ください）

対象：どなたでもご参加いただけます(手話通訳あり/日本語)

参加方法：事前申込制（※定員に達した場合は先着順となります。）

申込方法：以下のページよりお申し込みください

<https://tokyopride-hrc2026.peatix.com/>

主催：特定非営利活動法人 東京レインボープライド

後援：お茶の水女子大学 ジェンダー研究所

協力：特定非営利活動法人プライドハウス東京

公式サイト：<https://pride.tokyo/human-rights/>

タイムテーブルおよび登壇者（敬称略）

■13:10-13:30 | 基調講演：多様性と平等がひらく未来

教育は、知識の習得だけでなく、個人の尊厳を守る人権としての側面ももちます。本講演では、2018年にお茶の水女子大学が発表したトランスジェンダー女性の受入れを起点に、大学のセーフスペースとしての役割や包摂の経緯、そして多様性に関する授業や研究事例を紹介します。TRPとの連携を通じ、誰もが安心して学べる包摂的な教育について議論を深めます。

石丸 径一郎（いしまる けいいちろう）

お茶の水女子大学 心理学科 教授



1976年生まれ。1999年東京大学教育学部教育心理学コース卒業。2006年同大学院教育学研究科臨床心理学コース博士課程修了。国立精神・神経センター流動研究員、東京大学大学院教育学研究科専任講師、お茶の水女子大学准教授を経て2023年より現職。2025年よりお茶の水女子大学ジェンダー研究所所長。博士(教育学)。はりまメンタルクリニック公認心理師・臨床心理士。専門はジェンダー・セクシュアリティ、認知行動療法。

■13:35-14:35 | セッション1：トランスジェンダーとスポーツ ～議論が分断を生まないために～

トランスジェンダーとスポーツをめぐる議論は世界的に政治化し、LGBTQ+全体への偏見を強める一因となっています。本来スポーツは、多様な人が参加し、つながりを育む場ですが、性的マイノリティにとっては依然として高い壁があります。スポーツへのアクセスは単なる競技参加にとどまらず、社会とのつながりそのものです。本セッションでは公平性や国際ルールも踏まえ、誰もが安心して参加できるスポーツと社会のあり方を多角的に議論します。

パネル：岡田 桂、杉山 翔一、野口 亜弥

モデレーター：杉山 文野



岡田 桂（おかだ けい）

立命館大学 教授

筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科中退。専門分野はスポーツ社会学、文化研究、ジェンダー研究。特にスポーツとジェンダー／セクシュアリティの問題について継続的に研究。共著に『スポーツとLGBTQ+：シスジェンダー男性優位文化の周縁』（晃洋書房）、監修に『わたしたち、体育会系LGBTQです』田澤健一郎著（集英社インターナショナル）など。



杉山 翔一（すぎやま しょういち）

Field-R法律事務所 弁護士、セーフスポーツプロジェクト代表、IOCセーフガーディングオフィサー

Field-R法律事務所・弁護士。スポーツ紛争の解決、選手会・労働組合活動等が中心的取り扱い分野。2014年4月より、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構にて仲裁調停専門員としてスポーツ紛争の解決に携わる。2020年10月よりジャパンセーフスポーツプロジェクトを立ち上げ、子どもやアスリートの人権が守られたスポーツ環境

の実現に向けたアドボカシー活動を実施中。

2025年8月ライデン大学LL.M. 欧州人権法及び国際人権法コース修了。



野口 亜弥（のぐち あや）

成城大学 准教授（スポーツとジェンダー平等国際研究センター副センター長）

株式会社Azitama 代表

米国大学院でMBA取得後、スウェーデンでプロ女子サッカー選手として活動。引退後、ザンビアのNGOでスポーツを通じたジェンダー平等に従事。スポーツ庁国際課を

経て、現在は成城大学准教授・SGE副センター長。ASEAN11カ国と連携しスポーツとジェンダー政策を推進。株式会社Azitama代表として、包摂的なスポーツ環境の実装に取り組む。



杉山文野（すぎやま ふみの）

NPO法特定非営利活動法人東京レインボープライド 顧問
公益財団法人日本オリンピック委員会 理事

特定非営利活動法人プライドハウス東京 アスリート発信
チーム

フェンシング元女子日本代表。早稲田大学大学院教育学研究科修士課程修了。

トランスジェンダーの当事者として、長年LGBTQ+の啓発活動に携わり、2021年6月からは日本オリンピック委員会理事、日本フェンシング協会理事としても活動。社会における多様性の推進と、スポーツ界の発展に尽力。私生活ではパートナーとの間に2児をもうけ、精子提供者である友人と共に「3人親」として子育てを行うファミリースタイルも話題となった。

著書に『元女子高生、パパになる』（文藝春秋）。

■14:50-15:50 | セッション2：SRHRの視点で読み解く日本におけるLGBTQ+の権利

自身の身体や性、生殖に関する自己決定を保障する権利である「SRHR（性と生殖に関する健康と権利）」。日本におけるSRHRの歴史や現状を振り返りながら、LGBTQ+との関連性、特に2025年に話題となった「特定生殖補助医療法案」の問題点に焦点を当て性に関する自己決定の権利がどのように制限されようとしているのかを考えます。市民活動とアカデミアの双方から個別に見える課題のつながりを理解し、議論します。

パネル：草野 洋美、白井 千晶

モデレーター：高井 ゆと里



草野 洋美（くさの ひろみ）

公益財団法人ジョイセフ シニア・アドボカシー・オフィサー

SRHRとジェンダー平等の状況改善を目指し、国連人権理事会の機能を活用したアドボカシーに取り組む。市民社会団体のプラットフォーム「SRHR for ALLアクション！」の事務局を務め、包括的性教育の義務教育導入と性暴力根絶を求める政策提言を通して日本のSRHR推進とジェンダー平等改善を図る活動を行っている。品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会推進委員



白井 千晶（しらい ちあき）

静岡大学 教授

専門は家族社会学。児童養護施設における性的多様性に関する調査、児童相談所の里親認定・委託に関する調査などを実施。2025年岡山レインボーフェスタでは「レインボーな里親のお話」のモデレーターを務め、LGBTの里親当事者、行政の社会的養護担当とのトークイベントを実現。「特定生殖補助医療法案」をめぐる活動にも参加。



高井 ゆと里（たかい ゆとり）

Tネット アドバイザー

東京大学特任研究員。群馬大学准教授等を経て現職。東京レインボープライド理事。昨年は雑誌『エトセトラ：特集SRHR』で責任編集を務める。著書に『トランスジェンダー入門』（集英社2023年）。訳書にショーン・フェイ『トランスジェンダー問題：議論は正義のために』（明石書店2022年）など。

■15:55-16:55 | セッション3：線を引く社会—排外主義とLGBTQをめぐる言説、その接点と向き合い方

国籍やルーツ、属性の違いを理由に、人を社会の外側へと追いやろうとする考え方である「排外主義」。日本社会における排外主義の広がりやその背景を振り返りながら、LGBTQ+への排除とのつながり、特に「治安」「家族」「国のあり方」といった言葉を通して、誰がこの社会の一員として受け入れられるのか、どのような家族や生き方が「普通」とされてきたのかに焦点を当てます。個別に見えるさまざまな課題の重なりを、市民活動とアカデミ

アの双方の視点から捉え直し、分断ではなく、より包摂的な社会のあり方をともに考え、議論します。

パネル：鈴木 秀洋、田中 雅子

モデレーター：太田 尚樹

鈴木 秀洋（すずき ひでひろ）



日本大学（大学院危機管理学研究科/危機管理学部） 教授/学部次長

法務博士（専門職）、保育士、防災士。元文京区危機管理課長、男女協働課長、子ども家庭支援センター所長等。最高裁決定（R5.10.25）で全国の魁と引用された文京区の2013年条例（性自認・性的指向を理由とする差別・人権侵害を禁止）の立案担当。カラーリボンフェスタ、SOGI職員配付カード、認定バッジ、研修等施策展開。学部ではダイバーシティ委員長。内閣府、東京都その他自治体で、審議会や調査研究の委員長等多数。著書『LGBTQ理解増進法逐条解説ハンドブック』等

田中 雅子（たなか まさこ）



上智大学 教授

上智大学総合グローバル学部教員。社会福祉士。滞日ネパール人のための情報提供ネットワーク・コーディネーター。移民女性のリプロダクティブ・ジャスティスに関心をもち、相談や裁判支援に関わる。近著に『わたしたちの中 絶一38の異なる経験』（共著、明石書店、2024年）、『<ひと>から問うジェンダーの世界史 第1巻「ひと」とはだれか？—身体・セクシュアリティ・暴力』（共著、大阪大学出版会、2024年）など。



太田 尚樹（おおた なおき）

クリエイティブユニット「やる気あり美」 編集長

1988年生まれ。大阪府出身。株式会社リクルートを経て、LGBTQのクリエイティブユニット『やる気あり美』を発足。文芸誌での連載や脚本制作など、幅広い執筆活動に従事するかたわら、企業や自治体、学校等にて講演も行う。また、2025年4月に初の単著『グレーとライフ』（イースト・プレス）を刊行。

【特定非営利活動法人 東京レインボープライド】

Tokyo Pride公式サイト：<https://pride.tokyo/>

(2月26日、2026年度版に全面リニューアルいたしました)



特定非営利活動法人東京レインボープライドは、性的指向および性自認にかかわらず、すべての人が、差別や偏見にさらされることなく、より自分らしく、前向きに生きていける社会の実現を目指しています。Tokyo Prideの運営をはじめ、教育・啓発事業、芸術・文化事業、コミュニティ事業、ウェルネス事業、アドボカシー活動を通じて、LGBTQ+をはじめとする人々の人権の尊重と社会的理解の促進に取り組んでいます。

「Tokyo Pride」*1は、その活動の象徴として開催されるアジア最大級のLGBTQ+関連イベントであり、多様な文化やコミュニティが一堂に集うことで、社会における相互理解と連帯を深める機会を創出しています。

*1 2024年までは、東京レインボープライド（TOKYO RAINBOW PRIDE）の名称にて開催。